

法人（事業所）理念	笑顔で咲かせる、ひとりひとりの「できるよるこび」を大切に、周りへ「親切」・「丁寧」・「笑顔」でいられる人間力を培います。
支援方針	オーダーメイド教育：ソーシャルスキルトレーニングを中心とした、お子さまの発達や特性に合わせた療育プログラムの提案実施。 個別と集団療育のプログラムを兼ね合わせた専門性の高い療育提供。保護者支援（レスパイトケア）を実施、お子さまと共に安心して利用できる施設として、ご家族と環境への支援を行います。
営業時間	9時0分から18時0分まで 送迎実施の有無 あり なし

	ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容
--	-----	------	-------------

健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、適度な刺激であるお子さまの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康の増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食や身体力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるように、口腔機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自覚具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、衣類、衣類の整理、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構成する。	来所時に体温測定を行い、健康状態を確認する。始まる会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困り感がある時は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるように支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の目録に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。） (お茶を飲んだ後の水筒、学習後の筆箱やプリント類を所定の場所に戻すように声かけを行い習慣化し、育児の自主的な行動に繋がります。）
	運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保持する感覚の統合的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的技術の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるように支援する。 (c) 身体移動能力の向上 歩行での身体移動や歩行・歩行器具による移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の活用 保持する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の増進及び行動の活用 保持する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補助聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。

本人支援	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し、行動開始の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境中の情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の単体から多概念形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を認めることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさで、量で、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや興味等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	類似物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、図鑑や計算ゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をえ、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 (外出活動時に買い物を行い、お金の使い方や計算が出来るように月1回のペースで練習をする。) (「対1」で練習することで言葉にし、相手に伝えられるように先の見直しを立ててスキルの定着を図り感情のコントロール方法を学んでいく。)
		言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声や発音を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、電報の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階のお子さまごとに、習得の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。

本人支援	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し、行動開始の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境中の情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の単体から多概念形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を認めることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさで、量で、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや興味等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	類似物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、図鑑や計算ゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をえ、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 (外出活動時に買い物を行い、お金の使い方や計算が出来るように月1回のペースで練習をする。) (「対1」で練習することで言葉にし、相手に伝えられるように先の見直しを立ててスキルの定着を図り感情のコントロール方法を学んでいく。)
		言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声や発音を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、電報の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階のお子さまごとに、習得の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。

本人支援	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し、行動開始の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境中の情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の単体から多概念形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を認めることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさで、量で、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや興味等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	類似物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、図鑑や計算ゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をえ、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 (外出活動時に買い物を行い、お金の使い方や計算が出来るように月1回のペースで練習をする。) (「対1」で練習することで言葉にし、相手に伝えられるように先の見直しを立ててスキルの定着を図り感情のコントロール方法を学んでいく。)
		言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声や発音を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、電報の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階のお子さまごとに、習得の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。

本人支援	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し、行動開始の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境中の情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の単体から多概念形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を認めることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさで、量で、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや興味等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	類似物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、図鑑や計算ゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をえ、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 (外出活動時に買い物を行い、お金の使い方や計算が出来るように月1回のペースで練習をする。) (「対1」で練習することで言葉にし、相手に伝えられるように先の見直しを立ててスキルの定着を図り感情のコントロール方法を学んでいく。)
		言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声や発音を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、電報の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階のお子さまごとに、習得の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。

本人支援	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し、行動開始の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境中の情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の単体から多概念形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を認めることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさで、量で、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや興味等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	類似物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、図鑑や計算ゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をえ、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 (外出活動時に買い物を行い、お金の使い方や計算が出来るように月1回のペースで練習をする。) (「対1」で練習することで言葉にし、相手に伝えられるように先の見直しを立ててスキルの定着を図り感情のコントロール方法を学んでいく。)
		言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声や発音を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、電報の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階のお子さまごとに、習得の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。

本人支援	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し、行動開始の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境中の情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の単体から多概念形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を認めることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさで、量で、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや興味等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	類似物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、図鑑や計算ゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をえ、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 (外出活動時に買い物を行い、お金の使い方や計算が出来るように月1回のペースで練習をする。) (「対1」で練習することで言葉にし、相手に伝えられるように先の見直しを立ててスキルの定着を図り感情のコントロール方法を学んでいく。)
		言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声や発音を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、電報の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階のお子さまごとに、習得の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。

家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時(お迎え時)や、写真付きでサービス提供記録にお伝えします。 ・6ヶ月1回程度、モニタリングとは別に面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子や他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校(保育園・幼稚園)への送迎時、先主と学校(園)での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会を定期的に開催し、情報交換・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面で関わり方や、困りごとに関する提案やポイントを共有します。 ・セルフプラクティスには利用計画のコーディネーターの中核を担う事業所の開催する会議に参加し、情報共有を行います。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・プロッソムグループ本部にて下記研修実施 <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 ・その他 ・売場ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事 ・近隣施設や公園への外出活動 		